

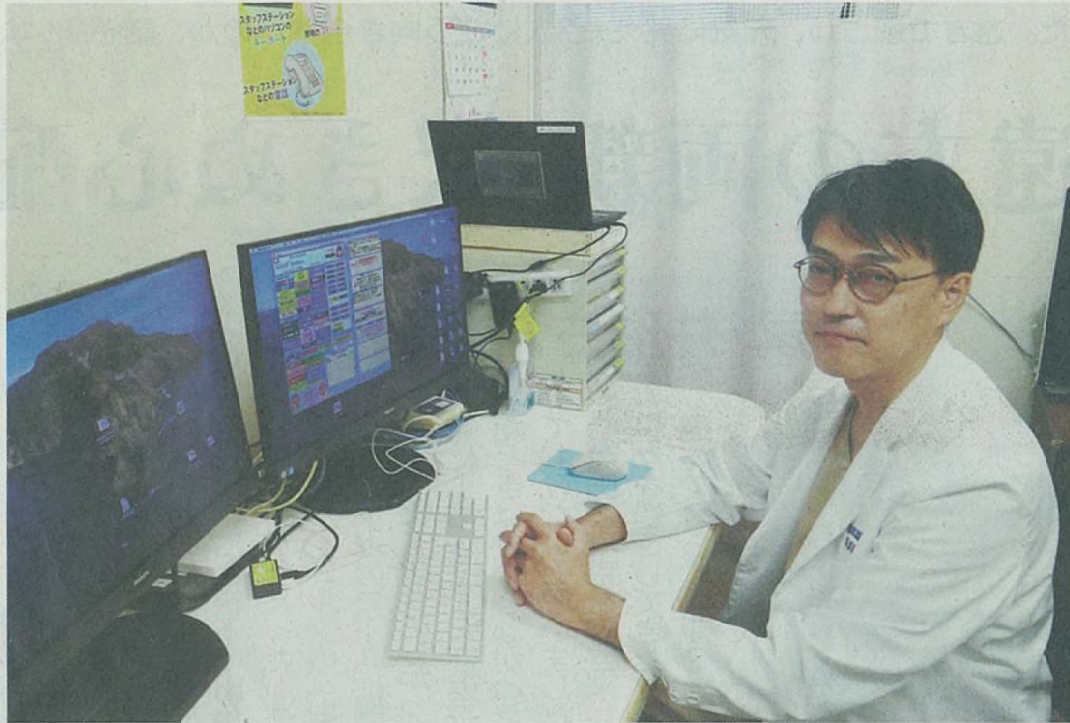
「もの忘れ外来」開設 早期治療へ

釧路市の釧路孝仁会記念病院(愛国)は、認知症の早期発見や治療を目的とする「もの忘れ外来」を開設した。常勤の専門医が画像診断の結果に基づき新薬を提供するなど、症状に応じたきめ細かい対処が可能になる。アルツハイマー病の進行を遅らせる新薬「レカネマブ(商品名レケンビ)」を投与できる体制も整えた。

釧路孝仁会記念病院

市によると、社会医療法人孝仁会が経営する釧路脳神経外科や釧路赤十字病院、釧路北病院も、もの忘れ外来を開設している。

孝仁会記念病院では、記憶力や注意力などを試すテストを行い、本人や家族から日常生活の様子を聞き取る。認知症の疑いがあると画像診断を行う。



孝仁会記念病院で開設している認知症の専門医が診察する「もの忘れ外来」

画像診断結果で新薬の提供も

萎縮などを把握できる「SPECT検査」を用い、認知症を引き起こす疾患を特定できる。認知症には症状を引き起こす疾患によって「アルツハイマー型」「レビー小体型」などに分かれ、種類に応じたケアや投薬が可能になるが、専門医がいればきめ細かい対応が可能になるといふ。

レカネマブは認知症の初期段階の進行を遅らせる効果があるとされる。アルツハイマー型の認知症が投与の対象で、専門医がいれば投薬できる。

診療にあたる認知症の専門医の稲垣徹院長は「ちょっとしたもの忘れや動作の遅れなどでも、気軽に診療に来て早期の治療につなげてほしい」と呼びかける。

もの忘れ外来の開設は今年1月。昨年12月にレカネマブの提供を始めたのに合わせた。完全予約制で、定員は1日10人程度。毎週水曜日に午前9時～正午まで受診を受け付ける。予約、問い合わせは同病院、電話0154・39・12222へ。

(上田惟高)